

Capo. 0 ノーブル

音が聞=えるほびに=ガーンヒキタ

^G
G Am D G D G Am D G D

^G音が聞=えるほびに= ^{Am} ^Dガーンヒキタ ^G

^Cまだ激しすぎる ^{Am} ^G思い込みだった ^D

^G考えていたことは ^{Am} ^D絶対正しいと ^G

^C信じて疑わな.. ^{Am} ^Gようになつた ^D

^{Em} ^{Am} ^D ^G ^B
広くみれる力を 持ち合わせていたなら

^{Em} ^D ^C ^{Am} ^D ^G
凝り固まらな.. 視線合わせでまたおろう

^C ^D ^{Am} ^D ^G
これが一番いいことだと 思っていた

面倒な人には成りたくないと

思っていたけれど いつのまにか

自分だけの感情に任せて

物事進める人になつた

ひと思いゆるゆりを 持ち合わせていたなら

独りよがりではなく 周りの声聞けたらう

これが一番いいことだと 思っていた

Capo. 4 1-2LG

冬の庭先で

E₇ D A₇ G B₇ E₇ D A₇ G D

^G冬の庭先では ^{A₇}緑も無く ^Dなっ ^Gて ^D

^G地面の土の ^{A₇}色が ^D黒ずみ ^G目立っ ^D

^{E₇}枝たりに ^Dなつた ^{D₇}バラの ^G足元 ^{B₇}スズランの ^G枯れ葉

^{E₇}抜けずに ^D残っていた ^{D₇}茶色が ^Gちになっ ^{B₇}て

^{A₇}今では ^Gすっかり ^G何も ^Gなくなっ

^{A₇}やがて ^G来る春に ^G備えるよ

^{A₇}あたたかく ^G土の中 ^Gかくれ

^{A₇}誰にも ^G気付かれな ^Gいように

冬の庭先の門扉 さわやか ^いほ ^ど冷たい

ネジカバーに ^隠れてた ^アリ ^たち ^も ^どに

球根を ^残して ^高砂 ^百合 ^早く ^から ^消えて

コンクリートに ^挟まれた ^ぬす ^か ^の ^土 ^の ^中

今では ^すっ ^か ^り ^何 ^も ^な ^く ^な ^り

やがて ^来る ^春に ^備えるよ

あたたかく ^土 ^の ^中 ^待 ^っ ^て ^る

誰にも ^気 ^付 ^か ^れ ^な ^い ^よ ^う ^に

Capo. V 1-マール Em

古都の雪

^{Em} 赤いから傘 ^D ^G 雪降るまち ^{Am} ^C

^G 少ない訪れる人 ^D

^{Em} 焦茶色 ^D の木造 ^G の間 ^{Am}

^C 着物で ^G 歩く ^{B7} 後ろ姿 ^{Em} みえる

^{Em} 随分前 ^{A7} の儚い ^D 記憶 ^G 突然

^{Em} よみがえり ^{A7} 苦しくなる ^D ^G

^G 二十歳 ^C を ^D 過ぎた ^G 時

^G 別れた ^C ばかり ^D のこと ^G

鮮明に思い出す

昨日のことのように

積もらない雪 けれど激しく

冷たい風に吹かれて

焦茶色の木造の下

竹やらいが二の目に染みる

随分前の儚い記憶突然

よみがえり苦しくなる

あの時このように

一人で歩いた道

はっきり思い出す

昨日のことのように

冬至を過ぎたから

Bm A Bm D G D G D G A D.

^{Dm} ^C ^{Dm} ^F
冬至を過ぎたから 毎日少しづつだけ

^{Dm} ^C ^F ^{Bb} ^C ^{Dm}
昼が長くなることで 春に向かう気がする

^{Bb} ^F ^{Bb} ^F
そしてあと少し 最後のひと頑張り

^{Bb} ^F ^{Bb} ^C ^F ^C
面倒なこと 年と共に忘れよう

^F ^{Gm}
いつものことながら

^{Bb} ^F
これから再び始める

^F ^{Gm}
おしどしに良くなる

^{Bb} ^F
勇気づけられる ひととき

Em D Em G C G C G C D7 Em
(9)

冬至を過ぎても まだまださびに寒くなる

緩むことだけ 気を付けて 崩れないように

そして今年も 無事に終わるように

とりなす気持ちで 新たにスタート

いつものことながら

これから再び始める

だんだんに良くなる

勇気づけられる ひととき

0 2 5

0 5 10 3 7 0 5 10 0

⁰今朝のニュースで

⁰原発の運転禁止命令解除、聞いた

⁰あけはちおろし 40年前

⁰建設中の新潟 幾度となく

¹⁰泊2日 ² ¹⁰通ったこと ⁰思っ ¹⁰出

* ³駅の周りも人が ⁵少

¹⁰ほとんどは ³缶ビール ¹⁰お

³夜を ⁵過ごした ⁵今は ⁵な

¹⁰ビジネスホテルで **

とこで働く人たち みんな一つの寮に

家族と別れたまま

訪ねた部屋で 見せてもらうアルバム

とこに写る家族との何気ない姿が

大切にしている 暮らしたのがわかる

まれに繰り出す 夜の街で

とこに住んでいる人たちの温もりを感じる

また行ける時があるのかもしれない

(**~***)

もう無理

* G C An G C An
 どうすることもできな、思うようにいかない
 G C An G C An
 何をすればいいかわからなくなってしまう**

F G- Em An
 もう無理 このままこれ以上は

F G F- An
 このままのわたしにこだわってる

F G- E- An
 たとえ自分だけが変わったとしても

F G F- An
 周りを変えることはムズカシイ

An G An
 潰れてしまうことより、ほんと引くしかない

An G An
 情けなくなることも、しばらくがまんするだけ

F- C
 直ッ詰々られたこの世界で

G C
 あるべき姿も 見えてきた

F- C
 その理想を失わず

G An
 やり直す 勇気 欲しい

(** ~ ***)

もう無理 このままこれ以上は

自分の世界にこもってしまう

だれも自分だけのことでなくて

関わる人たちと変にしない

知らないうち できる壁

正寄りかた、モノに

情けな、姿かたち、感情が無意識に

直ッ詰々られたこの世界で

後ろ向きな思い、気づいた

その自分と向きあって

やり直す 勇気 欲しい